

第3回 大学生の学習・生活実態調査



全国の大学生約5,000名を対象に、学習や学生生活の実態、意識を調査。
2008年以来4年ごとに調査を実施し、2016年は第3回を迎える。
大学が多様な改革を進めてきた間の、学生の変化をとらえた貴重なデータ。

調査概要

- **調査テーマ** 大学生の学習・生活に関する意識・実態
- **調査目的** 大学生の学習・生活全般にわたる意識や行動を多様な観点からとらえ、大学教育を中心としたこれからの大学生を取り巻く環境を考えていくための基礎データとして活用すること。また、広く一般に結果を公表し、社会に還元すること。
- **調査方法** インターネット調査
- **対象と抽出方法** 全国の大学1～4年生 4,948名

	1年生	2年生	3年生	4年生	計
男子	670	670	670	670	2,680
女子	567	567	567	567	2,268
計	1,237	1,237	1,237	1,237	4,948

インターネット調査会社の約420万人のモニター母集団のうち、「大学生」として登録されている約15万人に対して予備調査を実施。このうち、大学1～4年生（18～24歳、日本在住）にアンケートの協力を依頼。

文部科学省の『平成28年度学校基本調査』の男女比率に近いサンプル構成を目指して回収を行った。

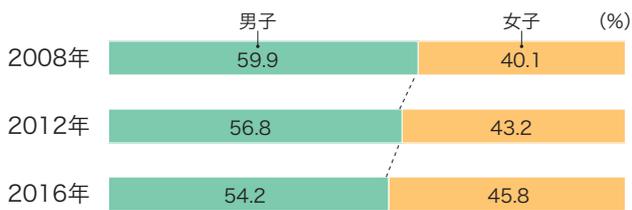
- **調査時期** 2016年11月18日～12月20日
- **調査項目** 高校での学習／大学選択で重視した点／入学時の期待／大学生活で力を入れたこと／大学生生活の過ごし方／履修科目数／評価／教職員との交流／保護者との関係／友だち関係／大学教育観／学びの機会／学びに対する姿勢・態度／大学生活で身につけたこと／海外留学の意向／進路意識／建学の精神やポリシーの認知／大学生生活の満足度／学びの充実／成長実感／社会観・就労観／投票行動など

過去の調査	実施時期	対象	調査方法
第1回	2008年10月上旬	大学1～4年生 4,070名 (男子2,439名、女子1,631名)	インターネット調査
第2回	2012年11月上旬	大学1～4年生 4,911名 (男子2,791名、女子2,120名)	インターネット調査

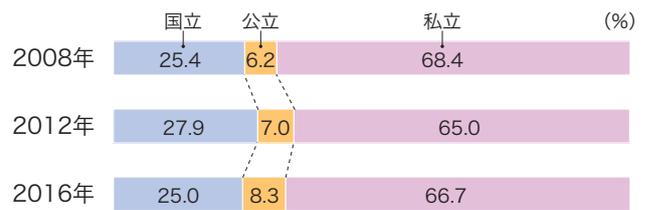
目次

基本属性	3	3-3	学びに対する姿勢・態度	13
1 高校からの接続		3-4	大学生活で身につけたこと	14
1-1 高校時代の学習	4	3-5	転学意向・履修状況・評価方法	15
1-2 進路決定	5	4 大学生の意識と行動		
2 大学生の生活		4-1	留学意向・グローバル意識	16
2-1 大学入学時の気持ち	6	4-2	就職活動	18
2-2 力を入れたこと・経済環境	7	4-3	大学教育に対する理解・満足	19
2-3 生活時間	8	4-4	学びの充実度・成長実感	20
2-4 教職員との交流・保護者との関係	9	4-5	困難への対処法	21
2-5 友だち関係	10	4-6	価値観	22
3 大学生の学び		4-7	投票行動	23
3-1 大学教育観	11	調査企画・分析メンバー		24
3-2 学びの機会	12			

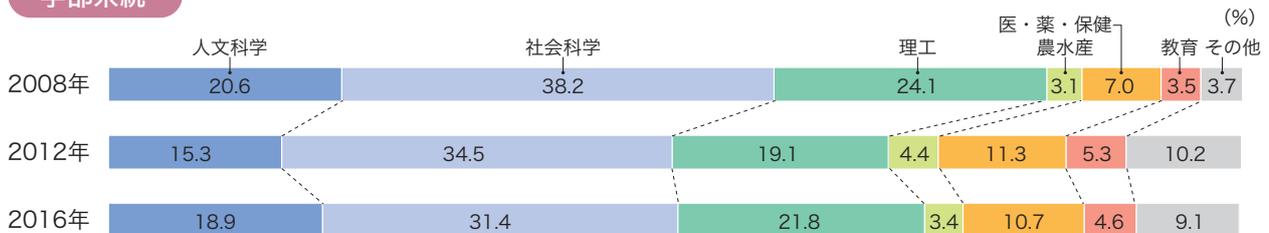
性別



設置者



学部系統



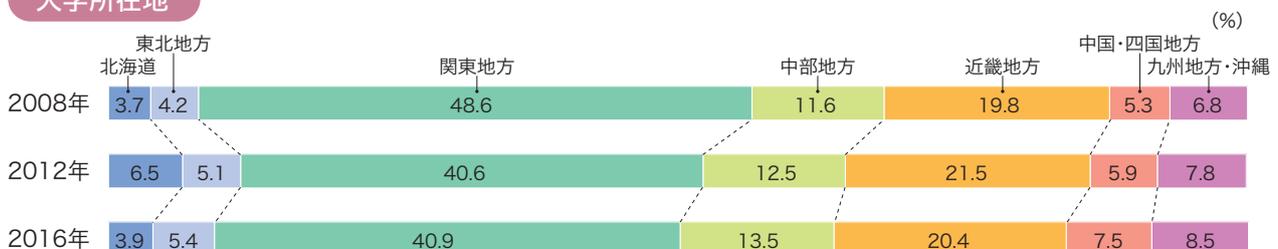
学部系統の区分	調査票で示した学部系統
人文科学	人文系統（文学、心理学、文化学など） 外国語学系統（外国語学部など） 国際学系統（国際関係学、国際情報など）
社会科学	社会学系統（社会学部、社会福祉学部など） 法学系統（法学、政治学、政治経済学など） 経済学系統（経済、経営、商学部、流通学など）
理工	理学系統（理学部、生命科学、地球環境など） 工学系統（理工学部、システム工、情報工など）
農水産	農学・水産学系統（農、水産、生物資源、獣医、酪農など）
医・薬・保健	保健衛生系統（保健、保健医療、看護、看護医療など） 医学（医学部） 歯学（歯学部） 薬学系統（薬学部など）
教育	教育学系統（学校教育学など）
その他	生活科学系統（家政、食物栄養、人間発達、保育など） 芸術系統（造形、音楽など） 総合科学（総合）系統（総合科学、教養、環境情報など）

入試難易度(偏差値)



※設問「あなたの通っている大学の入試難易度にあてはまるものを1つお選びください。」に、回答者が選択した結果。

大学所在地



【本調査結果を読む際の留意点】

- ・本調査結果で使用している百分比 (%) は、有効回答数のうち、その設問に該当する回答者を母数として算出し、小数点第2位以下を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、数値の和が100にならない場合がある。
- ・図表内の () 内の値はサンプル数を表す。なお、とくに注記がない場合は有効回答数4,948を母数として算出している。

1 高校からの接続

1-1 高校時代の学習

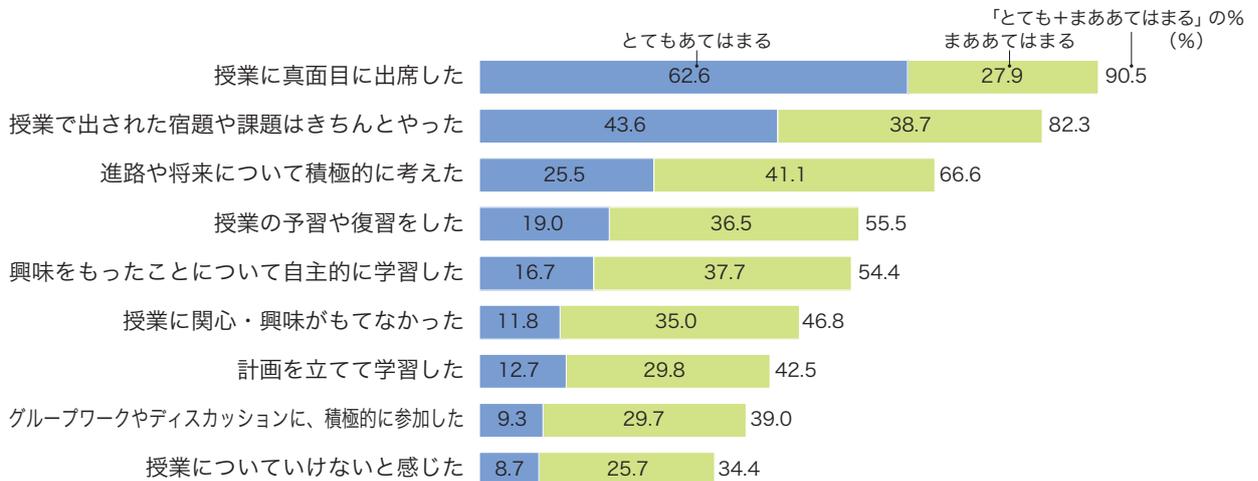
高校時代に課題解決型の学びを経験した学生は、約8割。

高校時代の学習の様子をみると、「授業に真面目に出席した(とても+まああてはまる)」が90.5%に対して、「授業に関心・興味もてなかった(同)」が46.8%、「授業についていけないと感じた(同)」が34.4%である。高校時代の授業に、関心・興味もてない、ついていけない、と感じながらも、大学に進学する学生が一定数存在することがわかる。高校での探求的な学びの経験をみると、「課題を解決するための方法を考える(よく+ときどきあった)」、「課題を解決するための情報を集める(同)」はいずれも8割である。大多数の学生が、高校で課題解決型の学びを経験している。

Q

高校時代の学校や家での学習の様子についてお聞きます。(2016年)

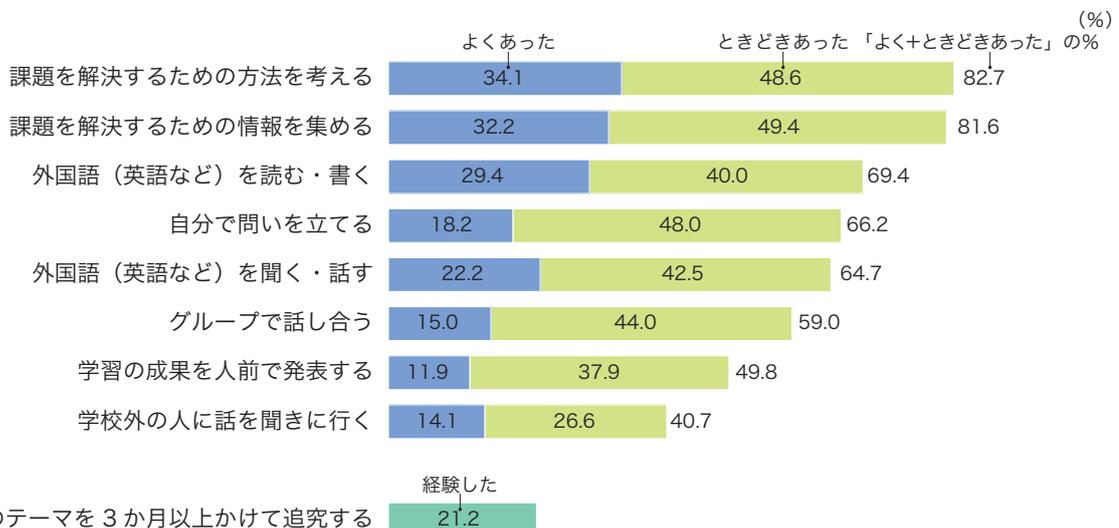
図1-1 高校時代の学習態度



Q

あなたは高校時代の学習に際して、次のようなことをどの程度経験しましたか。(2016年)

図1-2 高校時代の探求的な学びの経験



注)「1つのテーマを3か月以上かけて追究する」は「経験した」「経験しなかった」の2つの選択肢、その他項目は「よくあった」「ときどきあった」「ほとんどなかった」の3つの選択肢で回答。

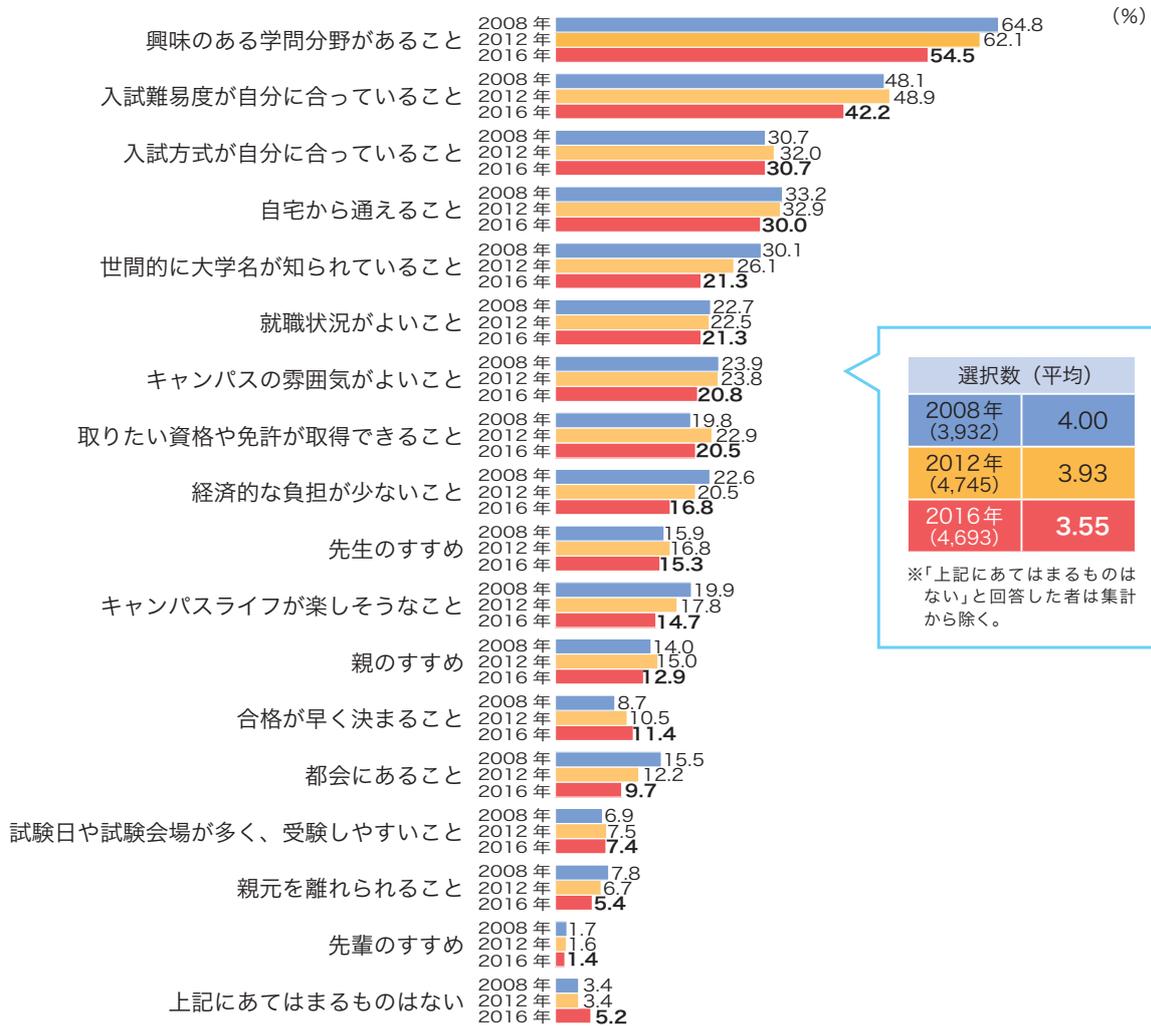
1-2 進路決定

大学選択でもっとも重視されるのは「興味のある学問分野」。約8割が満足して入学。

大学を決める際に重視した点(複数選択)をみると、順位に大きな変動はないが、1人あたりが選択する項目の数が減少している。8年前と比較し、受験大学を選択する際に、いくつかの点から検討しない学生が増加している。また、約8割が「とても+まあ満足して入学した」と回答している点については、4年前から変化はない。

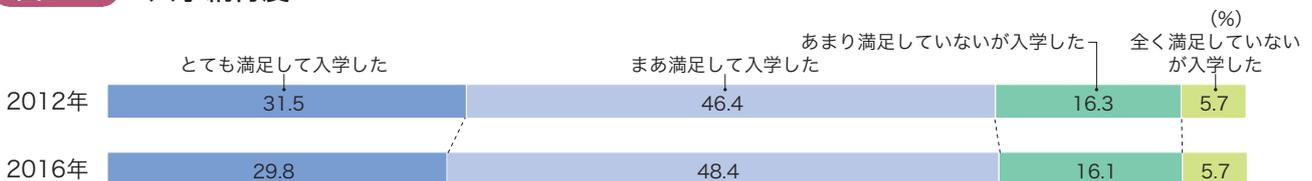
Q 受験する大学・学部を決める際に重視した点について、あてはまるものをすべてお選びください。(複数選択)

図1-3 大学選択で重視した点



Q 現在の大学・学部に入學したときの気持ちとして、もっとも近いもの1つをお選びください。

図1-4 入学納得度



2-1 大学入学時の気持ち

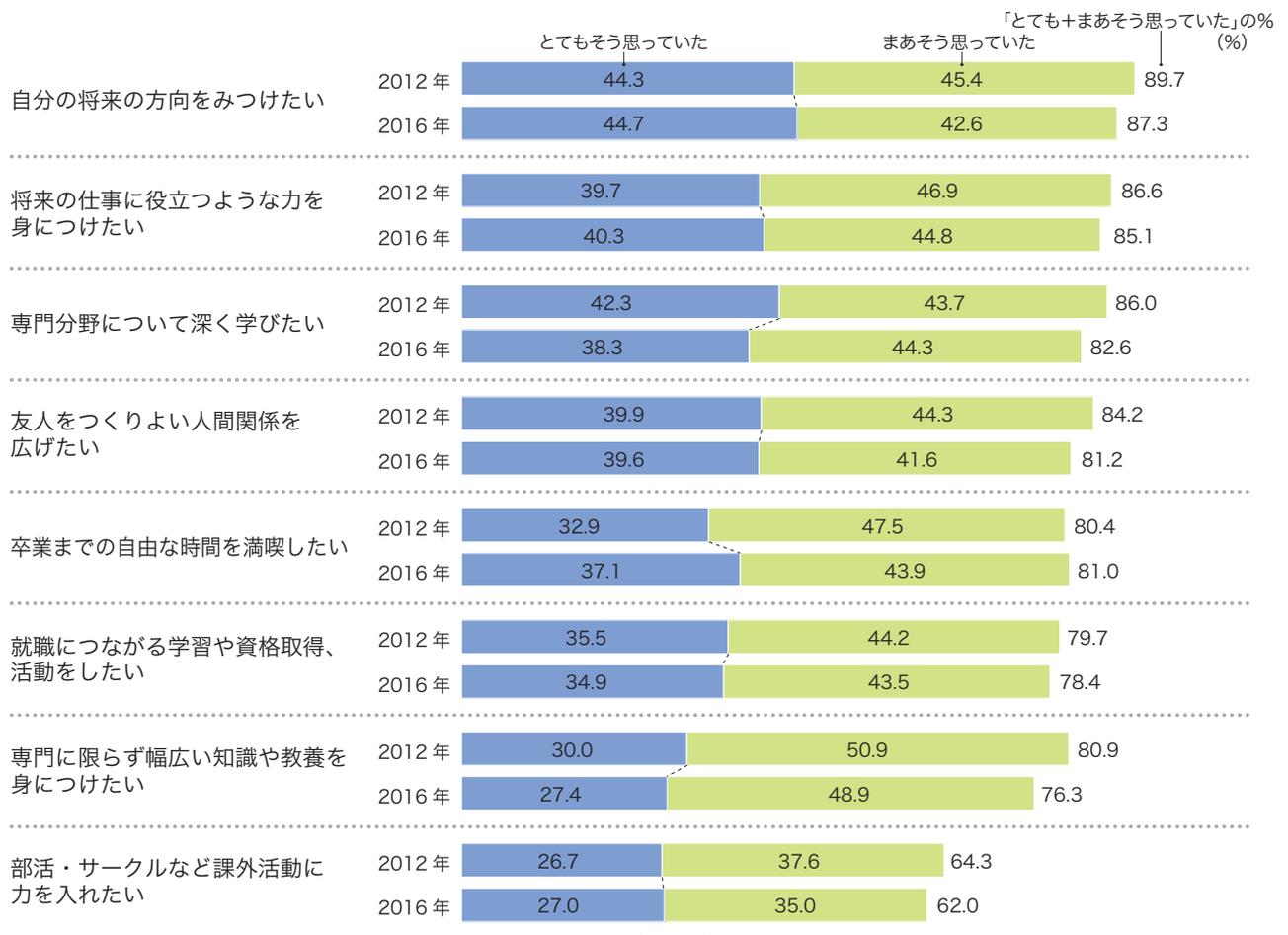
大学の教育内容に対する期待は、約8割と高い。

大学入学時に期待していたことをみると、4年間で大きな変化はなく、どの項目も総じて高い。「自分の将来の方向をみつけない」、「将来の仕事に役立つような力を身につけたい」といった将来へのつながり、「専門分野について深く学びたい」といった深い学びへの期待が大きく、大学の正課内の教育に対して十分な期待をもって入学している。また、学生の行動タイプをみると、「自分から積極的にやりたいことを探してやる」を選択した学生が、入学時31.8%から現在(回答時)37.4%に増加している。大学生活を通して、学生の積極性が培われているようだ。

Q

あなたが大学に入学したとき、次のようなことをどのくらい思っていましたか。

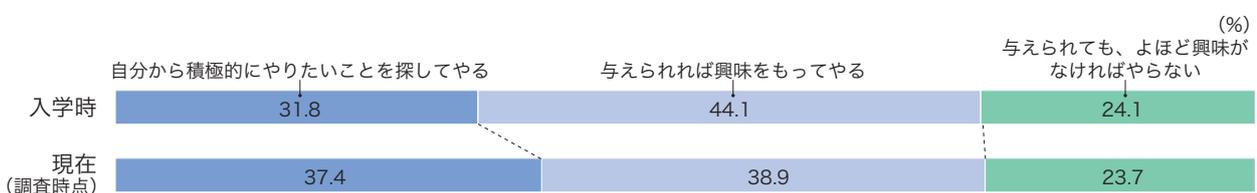
図2-1 大学入学時の気持ち



Q

大学入学時と現在のあなたの行動タイプにあてはまるものを、直感的にお選びください。(2016年)

図2-2 行動タイプ



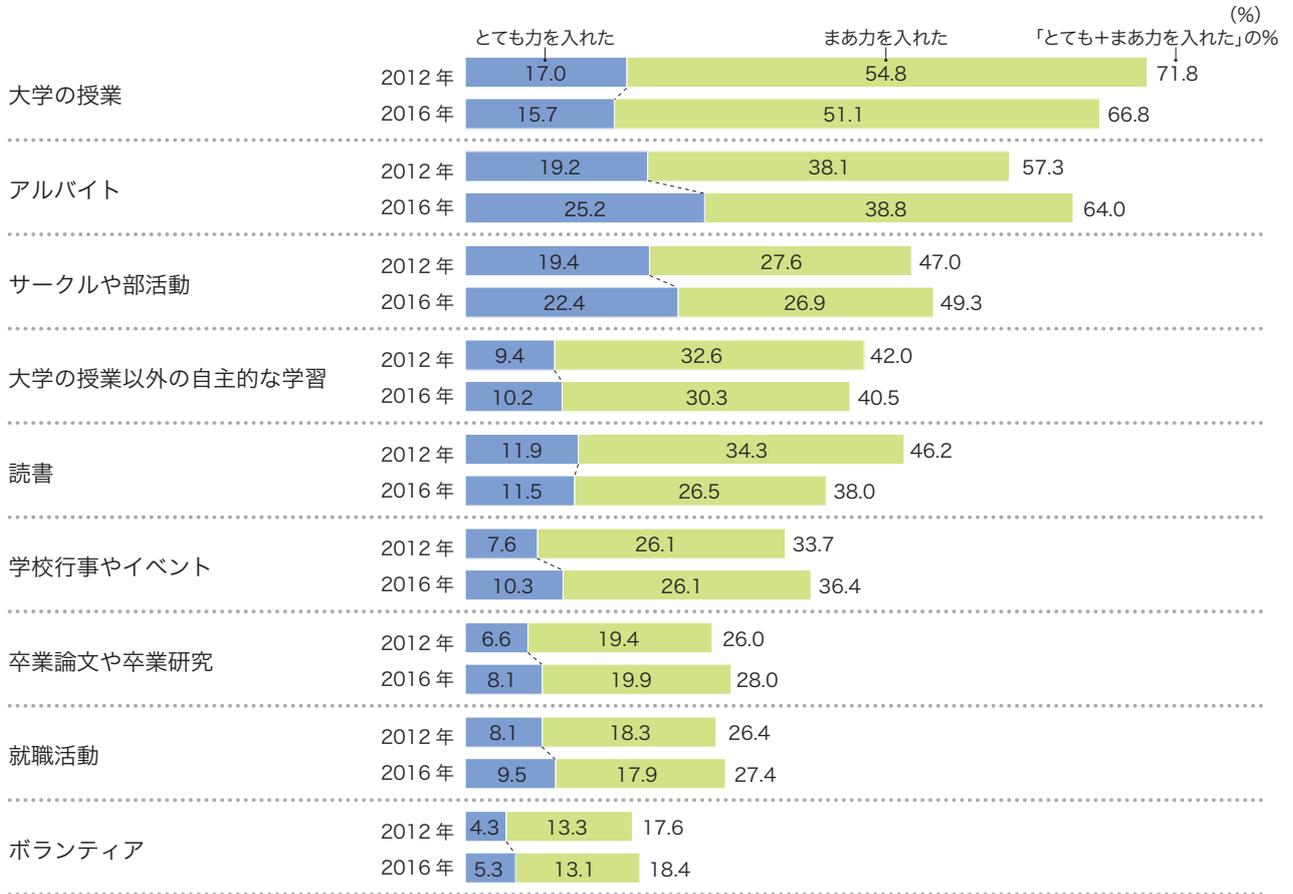
2-2 力を入れたこと・経済環境

保護者からの収入が減り、アルバイトに力を入れる学生が増加。

学生生活のなかで力を入れていること(とても+まあ力を入れた)をみると、この4年間で「大学の授業」が5.0ポイント減少し、「アルバイト」が6.7ポイント増加している。そこで、学生の経済状況をみてみると、「保護者などから」の収入が減少傾向にあり、「アルバイト」での収入が増加している。経済的な事由から、学生がアルバイトを増やさざるを得ない状況にあることがうかがえる。また、「読書」に力を入れる学生の割合は、この4年間で8.2ポイント減少しており、大学生の読書離れが進行している。

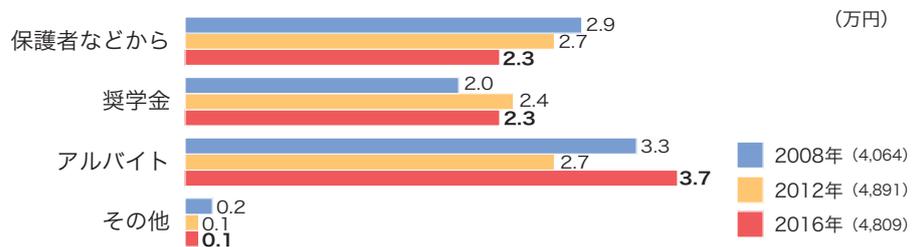
Q あなたは次の項目について、これまでの大学生活の中で、どのくらい力を入れてきましたか。

図2-3 力を入れたこと



Q あなたの1か月の収入をお答えください。
※1万円単位でお答えください。

図2-4 経済状況



注) 2016年のみ、「奨学金」の金額を「返済義務あり」と「返済義務なし」にわけてたずねた。合算した結果の平均値を他年度と比較する。

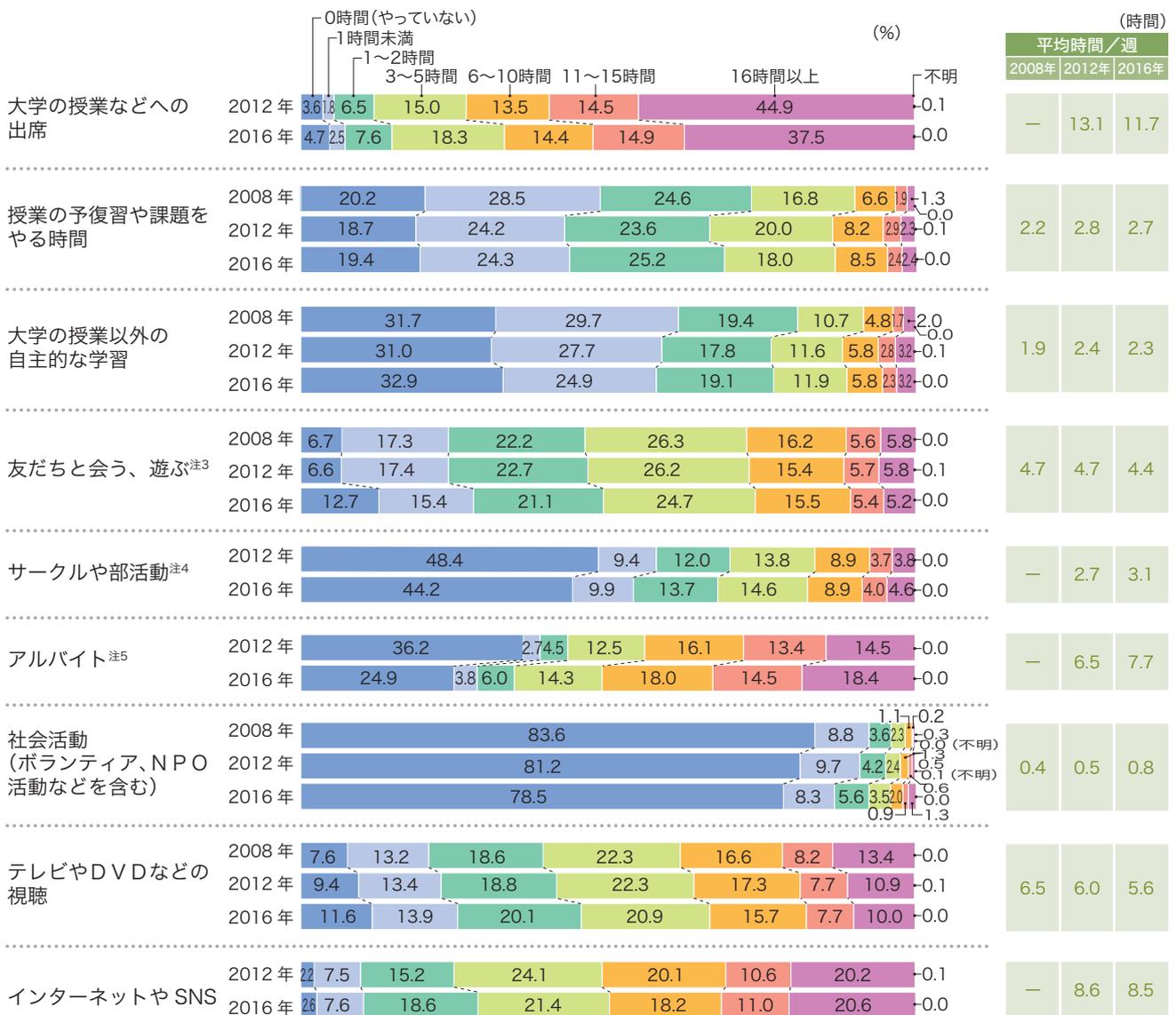
2-3 生活時間

授業の予復習や自主的に学習する時間は、4年間で変化はない。

学習やその他活動にかかる1週間あたりの時間をみると、授業の予復習や自主的に学習する時間が、2008年から2012年にかけての4年間には増加がみられたが、2016年までの4年間では変化はなかった。平均時間が多いものから順にみると、「大学の授業などへの出席」に次いで「インターネットやSNS」が週当たり平均8.5時間となっている。また「アルバイト」時間が、この4年間で週当たり平均1.2時間増加している。

Q ふだんの時間の過ごし方について、次の項目は1週間（月曜日～日曜日）で何時間くらいになりますか。今学期の平均的な1週間を振り返って、それぞれについてあてはまるもの1つをお選びください。

図2-5 1週間あたりの学習・生活時間(経年比較)



注1)「16～20時間」、「21時間以上」を「16時間以上」とまとめて表示。

注2) 平均時間について、「0時間(やっていない)」を「0時間」、「1時間未満」を「30分」、「1～2時間」を「1時間」、「3～5時間」を「3時間」、「6～10時間」を「6時間」、「11～15時間」を「11時間」、「16～20時間」を「16時間」と置き換えて算出した。「不明」は集計から除く。

注3) 2008年、2012年は、「友だちつきあい」とたずねた項目と比較した。

注4) 2012年調査では、別設問で「サークルや部活動をしていない」と回答した2,101名を、本設問の回答対象者としなかった。第3回と比較するにあたり、「サークルや部活動をしていない」と回答した2,101名を「0時間(やっていない)」とみなし再集計した。

注5) 2012年調査では、別設問で「アルバイトをしていない」と回答した1,776名を、本設問の回答対象者としなかった。第3回と比較するにあたり、「アルバイトをしていない」と回答した1,776名を「0時間(やっていない)」とみなし再集計した。

注6) 全11項目のうち、他年度と比較可能な9項目を抜粋して表示。

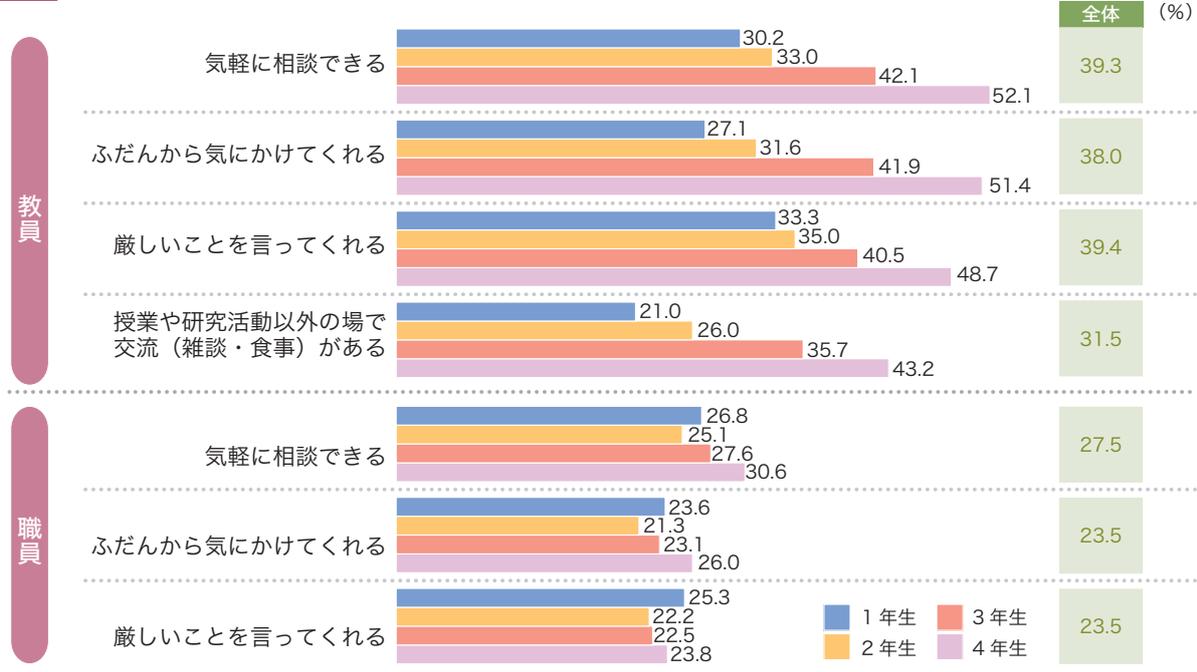
2-4 教職員との交流・保護者との関係

「困ったことがあると、保護者が助けてくれる」と考える学生が増加。

教員との交流をみると、いずれの項目も学年が進むにつれ増加している。とくに3・4年生での増加率が大きく、専門教育が始まりゼミや研究室に所属することで、教員との距離が縮まることがわかる。職員との交流は学年による差はなく、約2～3割にとどまる。保護者との関係をみると、「保護者のアドバイスや意見に従うことが多い」、「困ったことがあると、保護者が助けてくれる」と考える学生は8年間で増加している。よき相談相手であり頼れる存在として、保護者の役割が大きくなっているようだ。

Q あなたの周囲に、次にあげるような大学の職員や教員はいますか。(2016年)

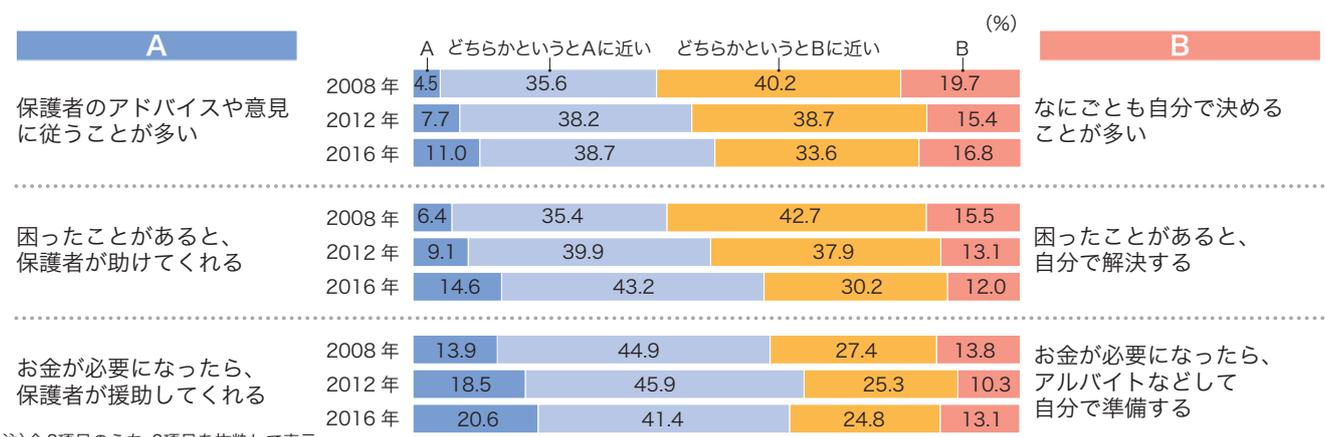
図2-6 教職員との交流



注) 「いる」の%。

Q あなたと保護者との関係について、それぞれについてもっとも近いもの1つをお選びください。

図2-7 保護者との関係



注) 全8項目のうち、3項目を抜粋して表示。

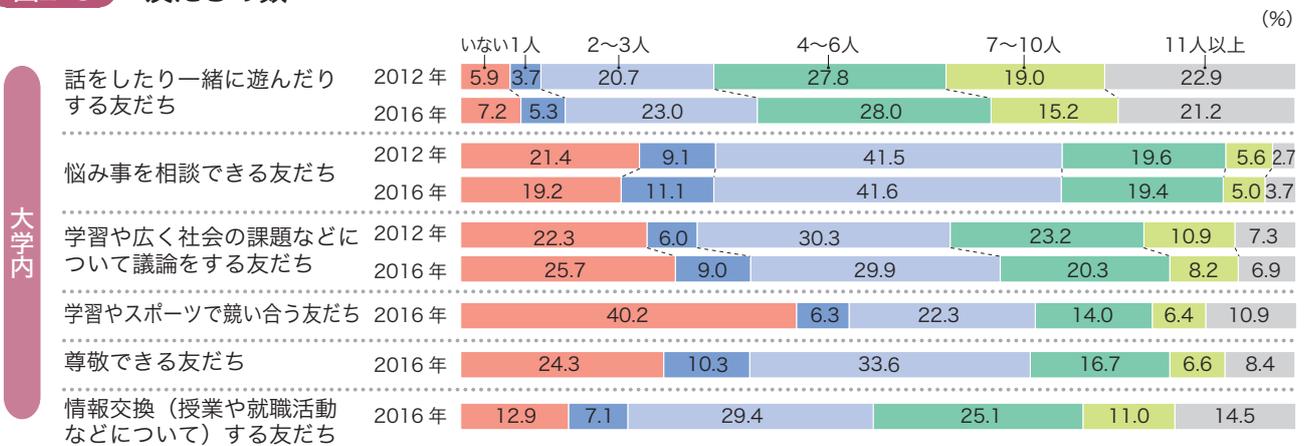
2-5 友だち関係

友だちと話が合わないと不安を感じる学生が増加。

大学内での友だちの数をみると、2016年のみの項目であるが「情報交換する友だち」が「いない」と回答した学生が12.9%存在する。半数以上の学生は「4人以上いる」と回答しており、学生間での情報量の差が案じられる結果となった。友だちとの付き合い方では、「1人で行動しても気にならない(とても+まああてはまる)」と回答した学生は4年前と変わらず約8割存在するが、「友だちと話が合わないと不安を感じる(同)」は4年前より14.9ポイント増加している。

Q 次のようなことをする友だちは全部で何人くらいいますか。

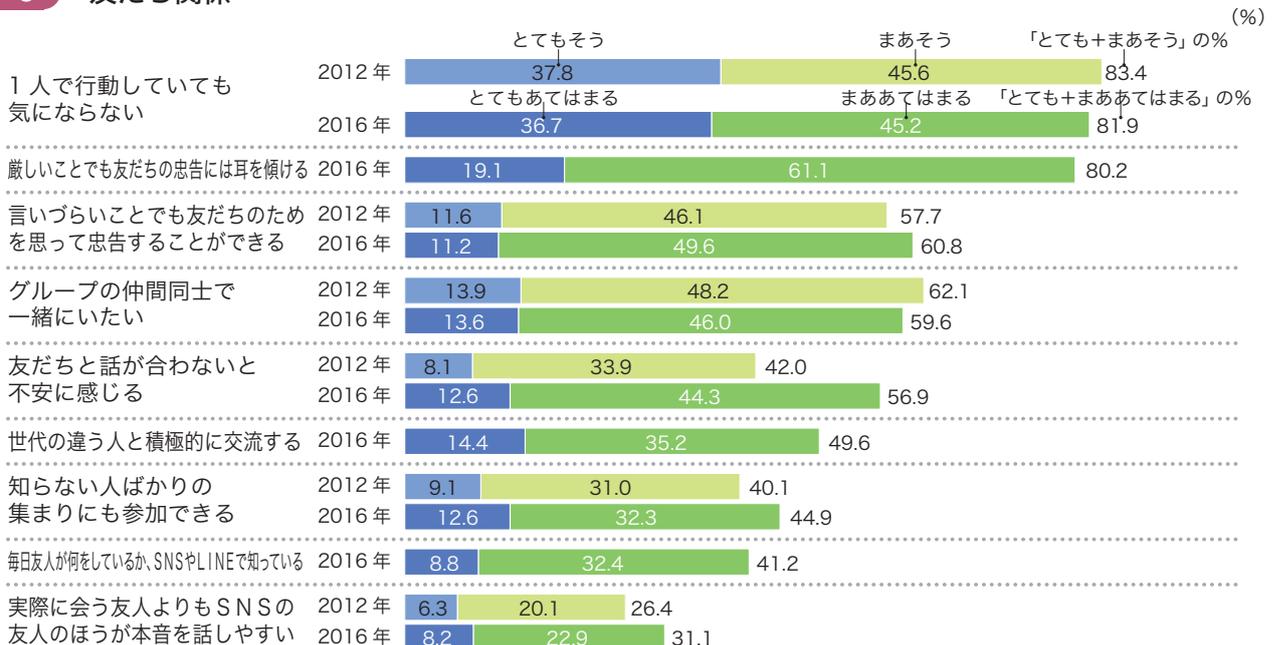
図2-8 友だちの数



注) 2012年は、「11~15人」、「16人以上」とわけてたずねた結果を「11人以上」に合算した。

Q 人との付き合い・交流について、次のようなことはどのくらいありますか。

図2-9 友だち関係



注) 2012年の「とてもそう」、「まあそう」の回答と、2016年の選択肢「とてもあてあまる」、「まああてあまる」の回答を比較した。

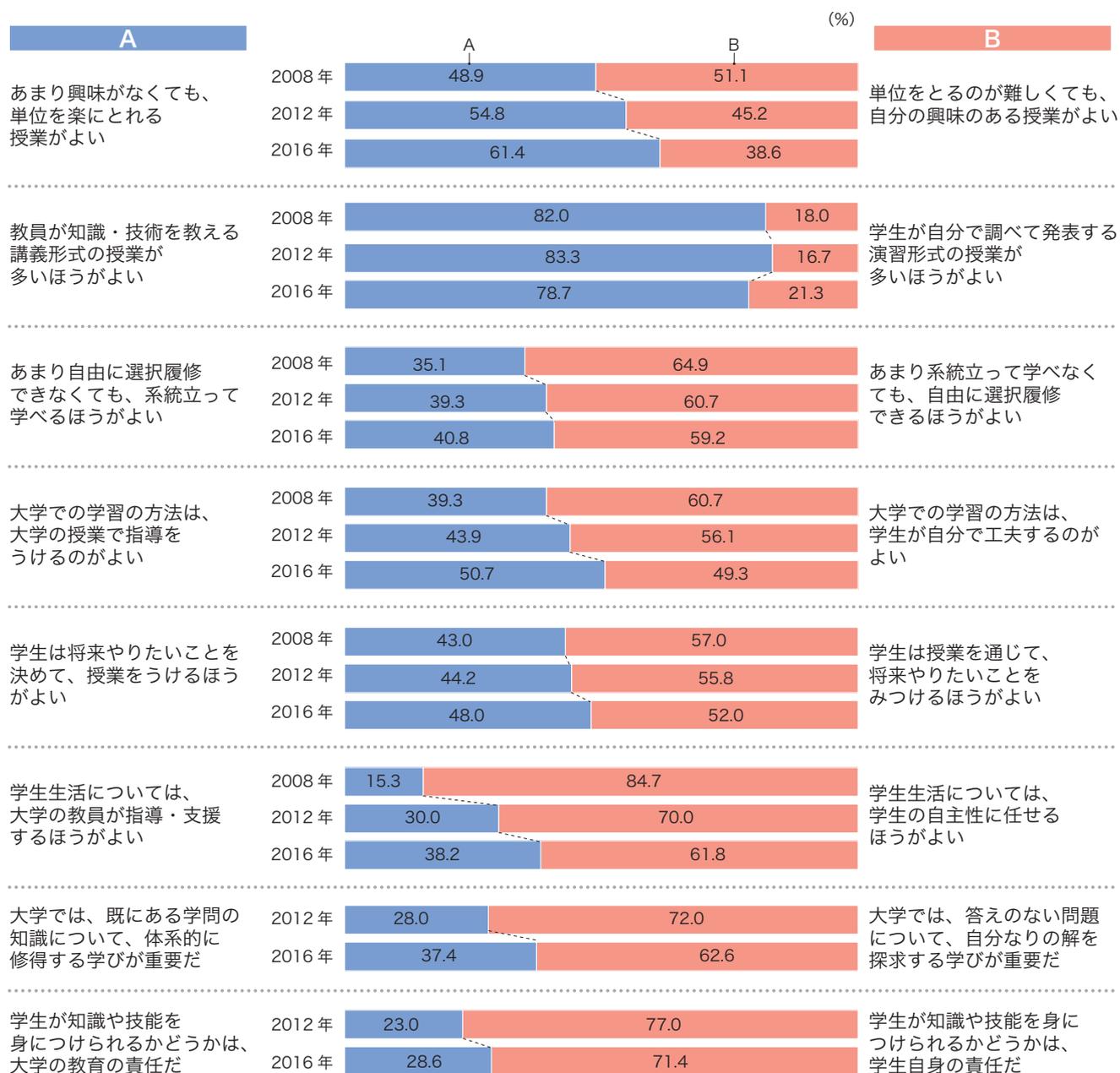
3-1 大学教育観

大学に指導や支援を求める意見が、8年間で増加。

この8年間で、学習方法を「自分で工夫」するよりも「大学の指導」を受けたいと考える学生が11.4ポイント、学生生活について「学生の自主性に任せる」よりも「教員の指導・支援」を受けたいと考える学生が22.9ポイント増加しており、大学に指導を求める声が大きくなっている。また、「単位取得が難しくても興味のある授業」よりも「あまり興味がなくても楽に単位を取得できる授業」をよいと考える学生が12.5ポイント増加しており、授業や学びに対する考えにも変化がみられる。

Q 大学教育について、あなたは次にあげるA、Bのどちらの考え方に近いですか。

図3-1 大学教育観



注) 全11項目のうち、他年度と比較して変化の少なかった3項目を除く、8項目を抜粋して表示。

3-2 学びの機会

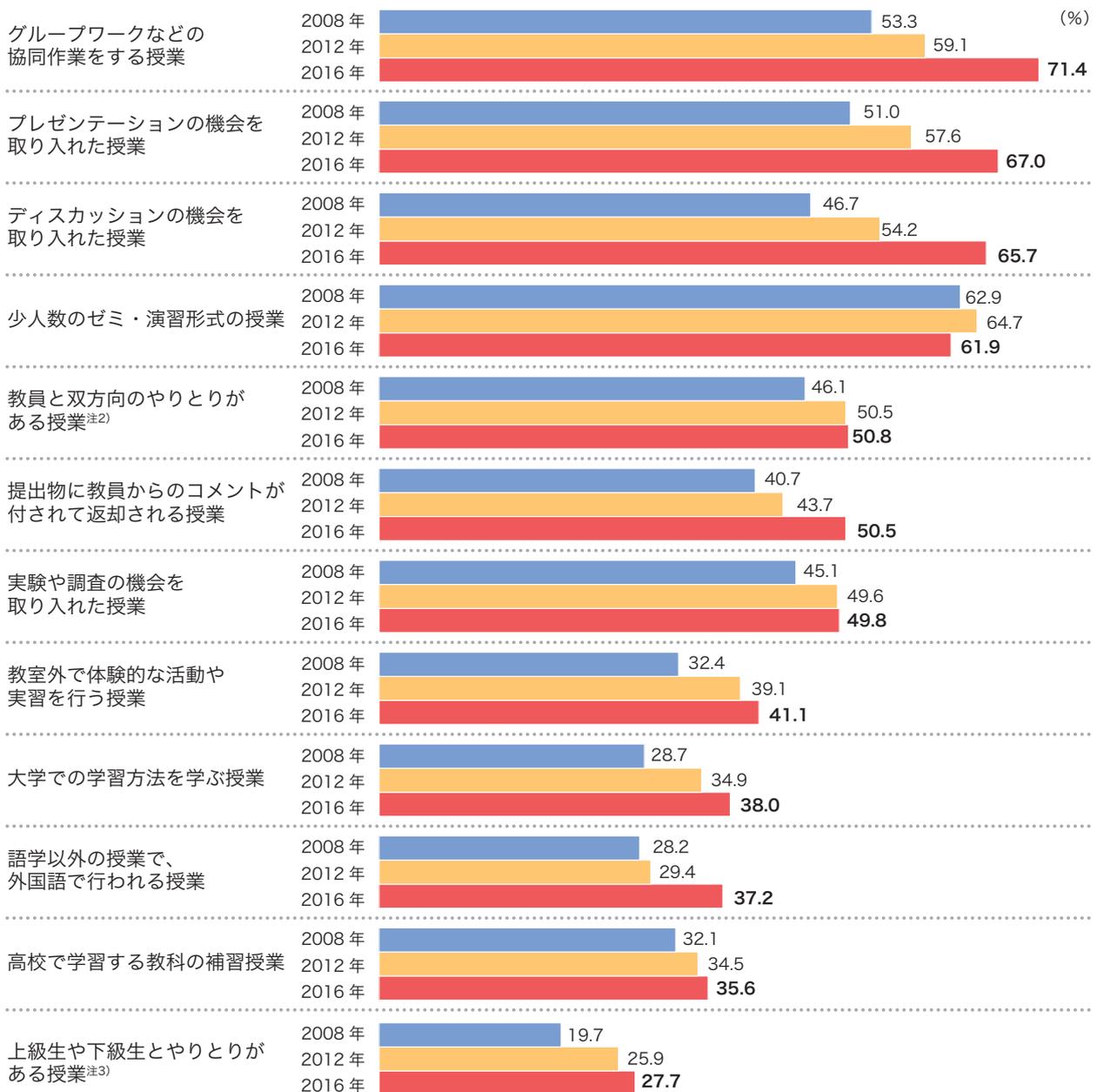
グループワークやプレゼンテーション、ディスカッションを取り入れた授業が、8年間で大きく増加。

この8年間で、「グループワークなどの協同作業をする授業(よく+ある程度あった)」と回答した比率は18.1ポイント、「プレゼンテーションの機会を取り入れた授業(同)」は16.0ポイント、「ディスカッションの機会を取り入れた授業(同)」は19.0ポイント増加し、いずれも約7割の学生が経験している。8年間で、アクティブ・ラーニング型の授業を経験する機会が増えていることがわかる。

Q

あなたはこれまで大学で、次のような授業を経験しましたか。

図3-2 学びの機会



注1) 「よく+ある程度あった」の%。

注2) 2008年、2012年は、「教員と学生が授業時間内にコミュニケーション(議論・質問・対話など)がとれる授業」とたずねた項目と比較した。

注3) 2008年、2012年は、「上級生と下級生が授業時間内にコミュニケーション(議論・質問・対話など)がとれる授業」とたずねた項目と比較した。

注4) 全15項目のうち、他年度と比較可能な12項目を抜粋して表示。

3-3 学びに対する姿勢・態度

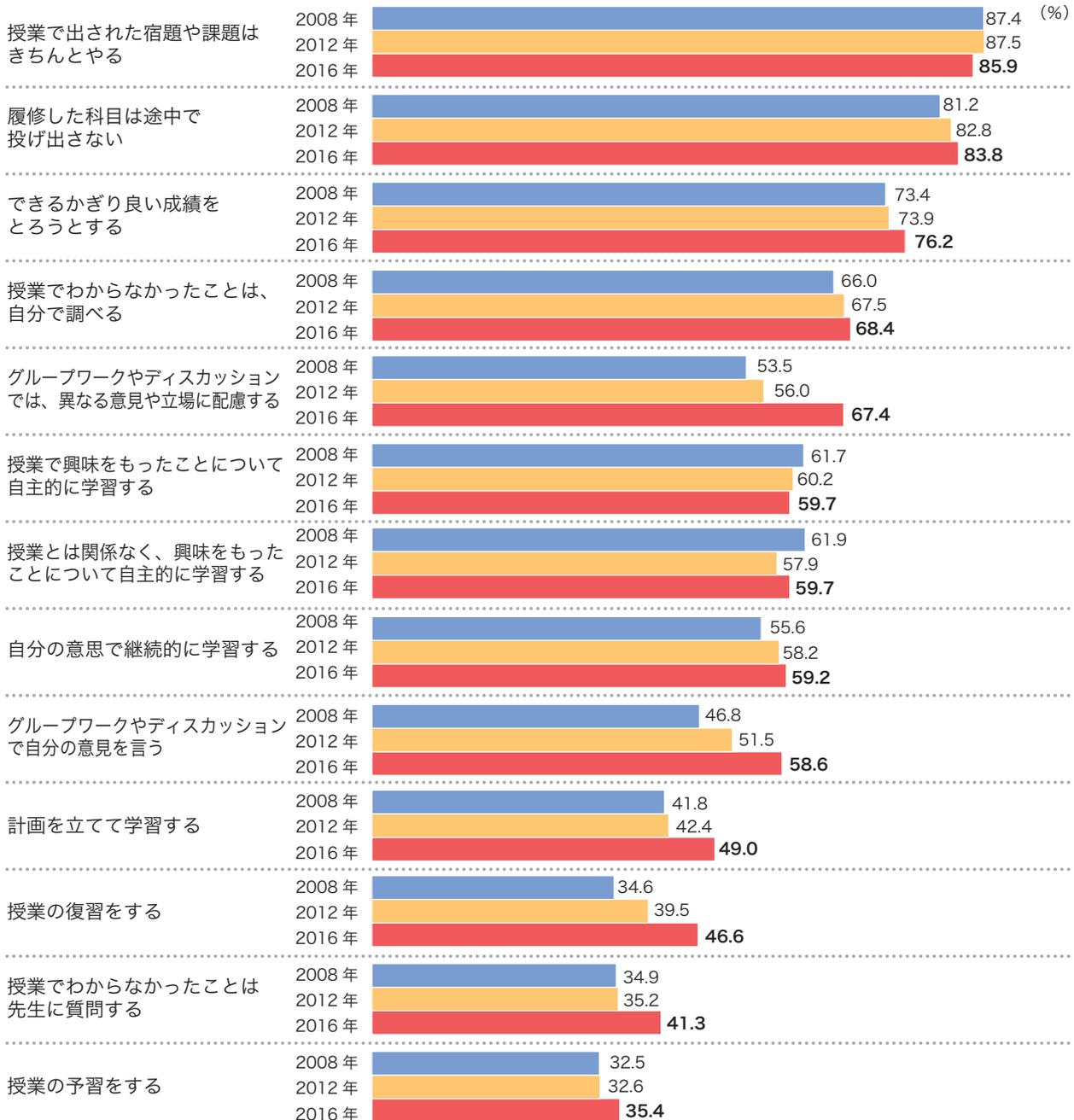
グループワークやディスカッションで、意見を主張する学生が増加。

2012年から2016年にかけての4年間で「グループワークやディスカッションでは、異なる意見や立場に配慮する(とても+まああてはまる)」11.4ポイント、「グループワークやディスカッションで自分の意見を言う(同)」7.1ポイント、「授業の復習をする(同)」7.1ポイント、「計画を立てて学習する(同)」6.6ポイント、「授業でわからなかったことは先生に質問する(同)」6.1ポイントの増加がみられた。大学の授業や高校時代の授業経験の変化が、学生の学習態度にも影響しているようだ。

Q

あなたは大学での授業に、ふだんからどのように取り組んでいますか。

図3-3 授業への取り組み



注)「とても+まああてはまる」の%。

3-4 大学生生活で身についたこと

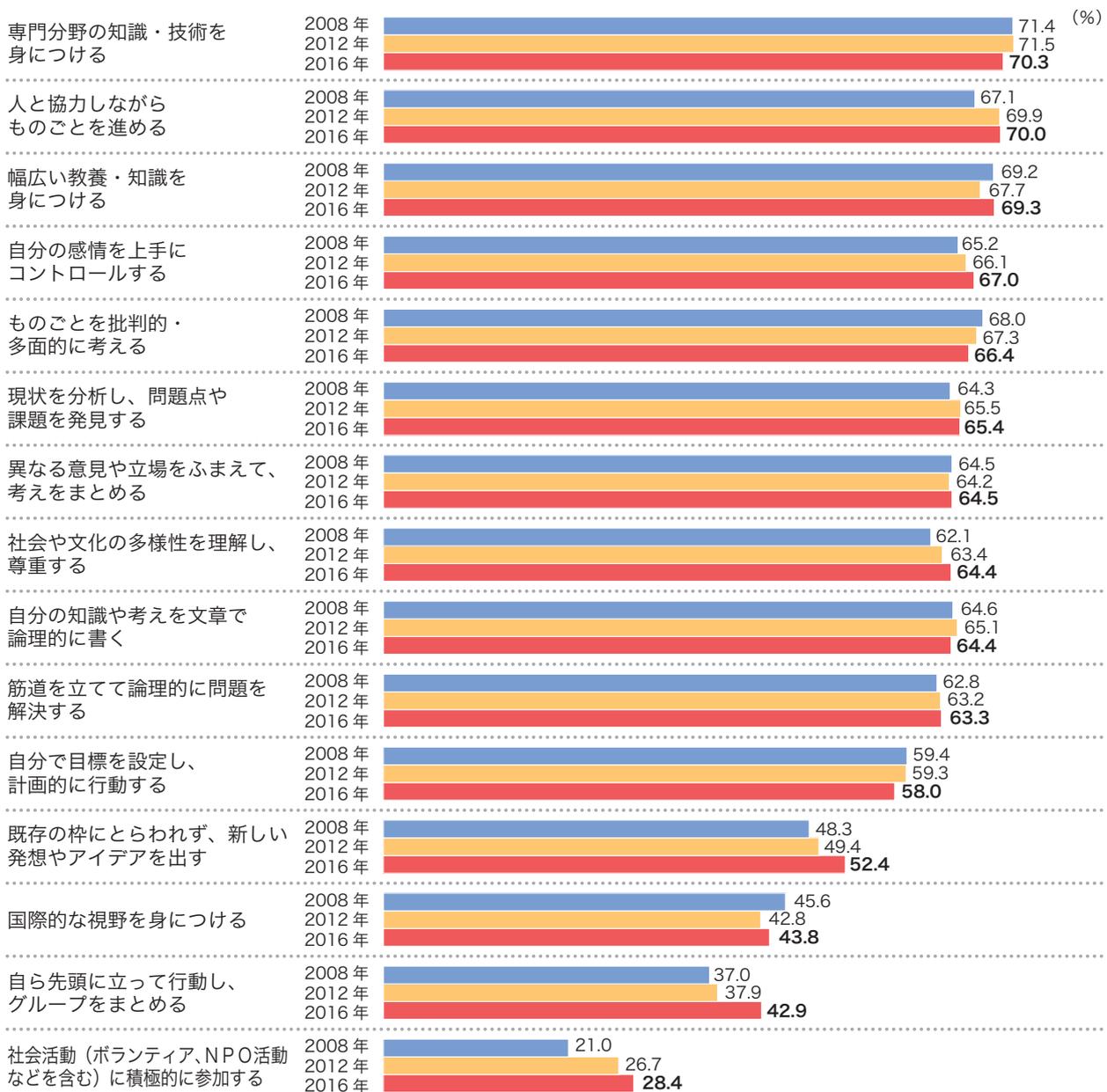
スキルや能力の自己評価は、8年間でほとんど変化がない。

大学生生活を通して身についたこと(自己評価)をみると、8年間変わらず、専門知識の習得、協力しながらものごとを進める力への評価が高く、思考力、自己管理能力は中程度、国際的な視野や語学力、リーダーシップ、社会活動参加が低い。自己評価が低い項目の中での変化ではあるが、8年前と比べ、「自ら先頭に立って行動し、グループをまとめる(かなり+ある程度身についた)」が5.9ポイント、「社会活動に積極的に参加する(同)」が7.4ポイントの増加がみられた。

Q

あなたは次のようなことについて、大学生活全体を通じてどの程度身についたと思いますか。

図3-4 大学生生活を通して身についたこと



注1) 「かなり+ある程度身についた」の%。

注2) 全22項目のうち、他年度と比較可能な15項目を抜粋して表示。

3-5 転学意向・履修状況・評価方法

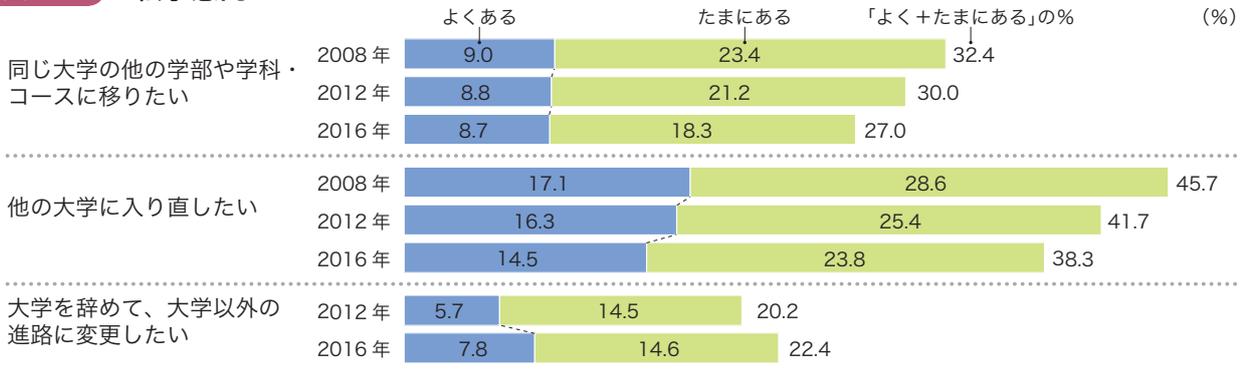
転部や転学を考える学生は、8年間で減少傾向。

転部や転学など進路変更の意向をみると、この8年間で「他の学部や学科・コースに移りたい(よく+たまにある)」は5.4ポイント、「他の大学に入り直したい(同)」は7.4ポイント減少している。とはいえ依然として、転学したいと考えることのある学生は約4割、大学進学以外の進路に変更したいと考えることのある学生は約2割いる。履修科目数や総取得単位数(4年生のみ)が多いのは、1、2年生のときである。



あなたは現在の大学生活の中で、次のように思うことはありますか。

図3-5 転学意向

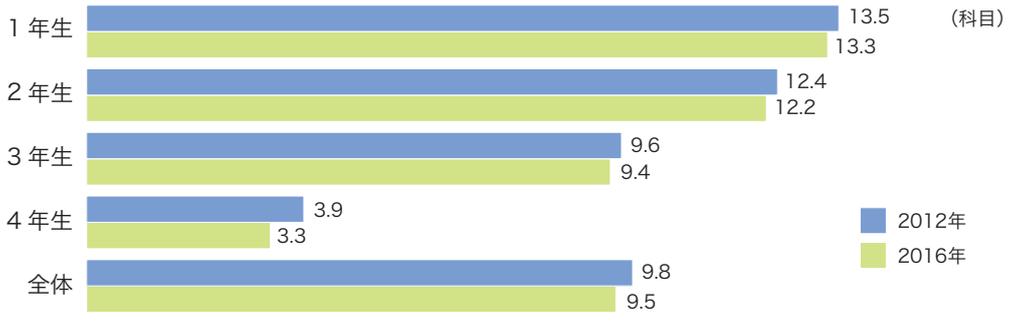


注)全5項目中、他年度と比較可能な3項目を抜粋して表示。



あなたは今学期いくつ科目を履修していますか。

図3-6 履修科目数(平均)



注1) 集中講義は除きます。
 注2) 2012年 1年生 n=1,184、2年生 n=1,184、3年生 n=1,203、4年生 n=1,229、全体 n=4,800。
 2016年 1年生 n=1,164、2年生 n=1,184、3年生 n=1,207、4年生 n=1,223、全体 n=4,778。



あなたが入学してから今年の前期までに習得した総単位数を教えてください。(各学年ごとに回答)

表3-1 調査時点までの単位習得数(平均)

	2016年
1年生のとき	41.6
2年生のとき	40.4
3年生のとき	34.7
今年度前期	8.4

注)大学4年生 n=1,216 のデータのみ分析。



あなたの大学での成績の評価方法として、あてはまるものをお選びください。どちらも併用している場合は両方を選択してください。

表3-2 大学の評価方法

	2008年	2012年	2016年
秀・優・良・可 (A・B・C・D)	82.2	76.4	54.7
優・良・可 (A・B・C)			20.3
GPA	37.2	56.2	59.9

注) 2008年、2012年は、「優・良・可(A・B・C)」、「GPA」の2つの選択肢でたずね、「秀・優・良・可(A・B・C・D)」の場合は、「優・良・可(A・B・C)」を選択するように案内した。

4 大学生の意識と行動

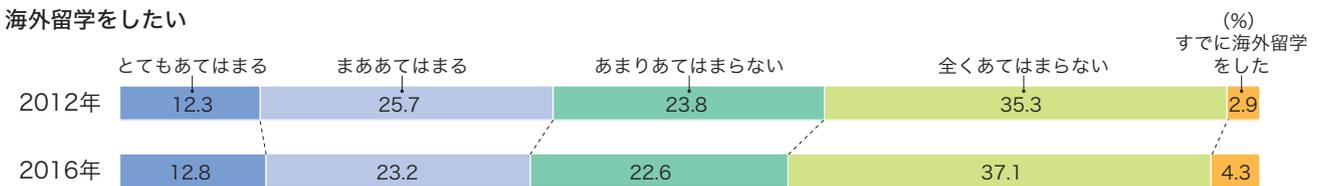
4-1 留学意向・グローバル意識

留学したい学生の割合に変化はないが、留学希望期間は長期化。

海外留学の意向についてみると、「海外留学をしたい(とても+まああてはまる+すでに海外留学をした)」と回答した学生は、2012年40.9%、2016年40.3%でほとんど変わらない。留学したい期間をみると、「1ヶ月未満」の短期が14.3ポイント減少し、「1ヶ月～6ヶ月以内」が増加している。留学したい時期は、4年間で変化はなく、2年生がもっとも多い。

Q あなたの在学中(大学・大学院)の海外留学の意向について、あてはまるもの1つをお選びください。在学中にすでに留学をした方は「すでに海外留学をした」を選択してください。

図4-1 留学意向



留学を希望する・経験した学生のみ回答

Q 留学の期間として、もっとも希望に近いもの1つをお選びください。(「すでに海外留学をした」と回答の方は、実際に留学した期間をお答えください。)

図4-2 留学期間

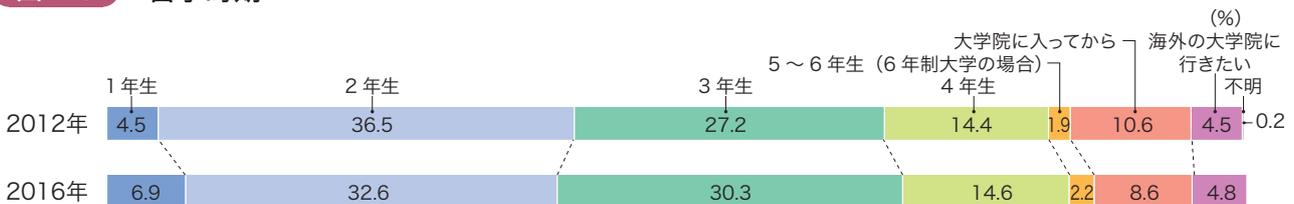


注) 「海外留学をしたい」に「とてもあてはまる」「まああてはまる」「すでに海外留学をした」と回答した者が対象。2012年n=2,009、2016年n=1,995。

留学を希望する・経験した学生のみ回答

Q 留学する時期として、もっとも希望に近いもの1つをお選びください。(「すでに海外留学をした」と回答の方は、実際に留学した時期をお答えください。)

図4-3 留学時期



注) 「海外留学をしたい」に「とてもあてはまる」「まああてはまる」「すでに海外留学をした」と回答した者が対象。2012年n=2,009、2016年n=1,995。

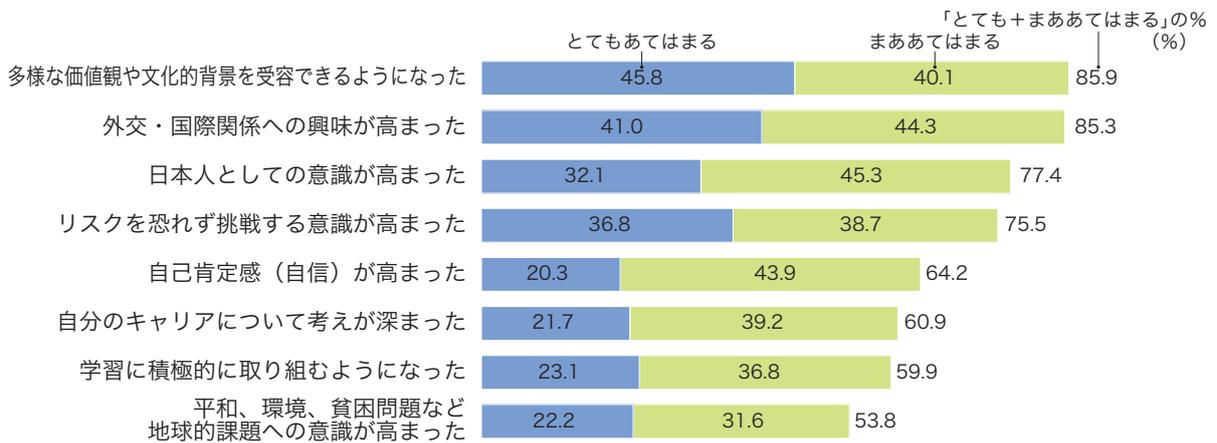
留学を希望しない理由は「経済的に難しい」が約5割、「海外生活が不安」約4割。

留学を経験した学生に、意識や行動の変化をたずねた結果をみると、「多様な価値観や文化的背景を受容できるようになった(とても+まああてはまる)」が85.9%、「外交・国際関係への興味が高まった(同)」が85.3%と高い。一方で、「学習に積極的に取り組むようになった(同)」は59.9%で、学習行動の変容は約6割にとどまった。また、留学を希望しない学生に、その理由をたずねた結果をみると、「経済的に難しいから」が48.1%でもっとも多い。「海外生活が不安だから」39.9%、「語学力に自信がないから」37.5%、「海外に興味がないから」37.1%といった理由も約4割存在する。

留学を経験した学生のみ回答

Q 留学経験によりあなたの意識や行動に変化はありましたか。(2016年)

図4-4 留学の成果

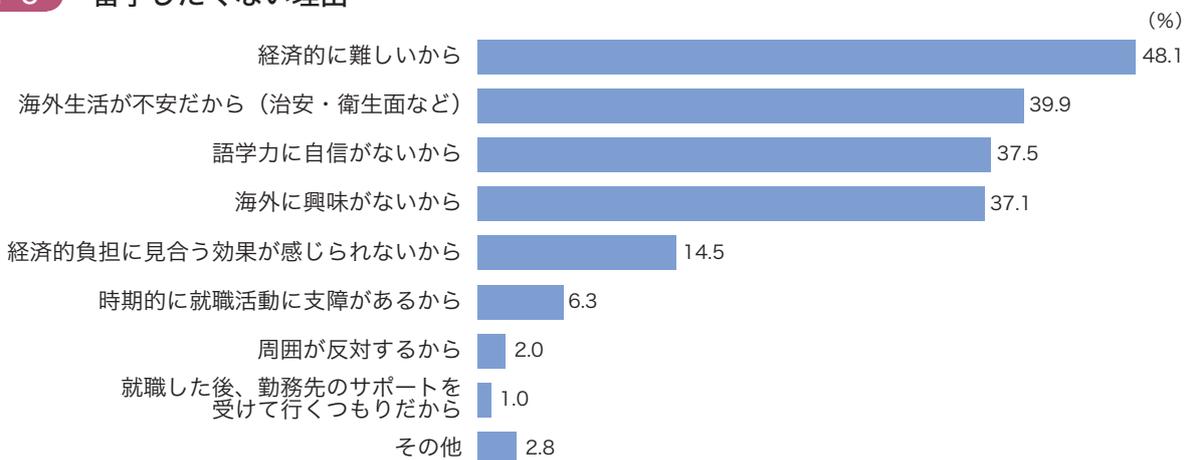


注)「すでに海外留学した」と回答した者が対象。n=212。

留学を希望しない学生のみ回答

Q あなたが留学したいと思わないのはなぜですか。(3つまで選択) (2016年)

図4-5 留学したくない理由



注)「海外留学をしたい」、「あまり+全くあてはまらない」と回答した者が対象。n=2,953。

4-2 就職活動

4年前より進路に向けた活動を開始する時期が早まる。

4年生を対象に、卒業後の進路に向けた準備・活動をいつ頃から始めたかをみると、「大学3年生の夏休み以前」に開始した学生は2012年22.1%、2016年27.1%で4年前より5.0ポイント増加しており、進路を意識した活動を始める時期が、早まっている。進路の決定・検討状況をみると、「進路が決定(内定)している」は2008年67.2%、2012年56.8%と大幅な減少から一転し、2016年70.5%と8年前の水準に回復している。

Q

大学卒業後の進路（就職、大学院進学等を含む）に向けた準備・活動をいつ頃から始めようと考えていますか（あるいはいつ頃から始めましたか）。

図4-6 就職活動

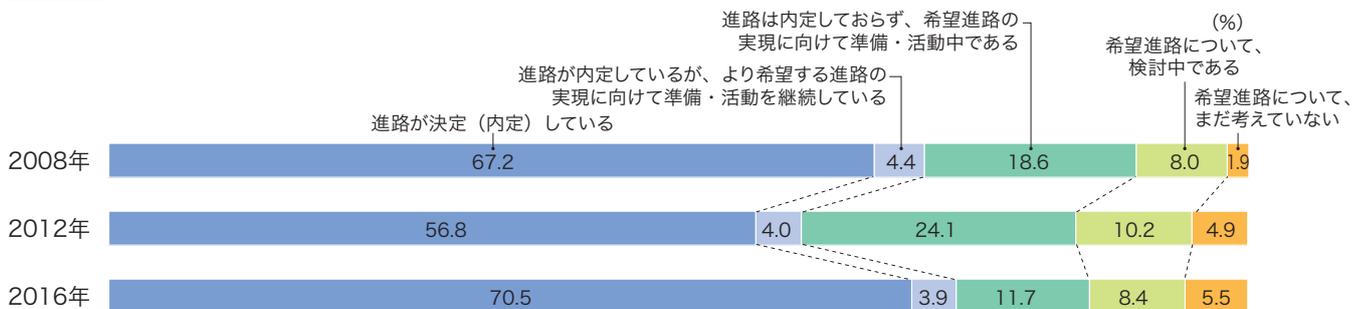


注) 大学4年生のデータのみ分析。2012年n=1,236、2016年n=1,237。

Q

大学卒業後の進路（就職、大学院進学等を含む）の決定・検討状況について、あてはまるもの1つをお選びください。

図4-7 内定状況



注) 大学4年生のデータのみ分析。2008年n=1,023、2012年n=1,236、2016年n=1,237。

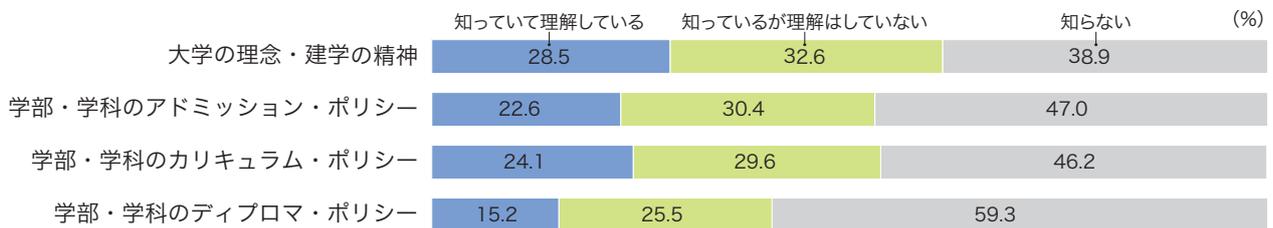
4-3 大学教育に対する理解・満足

大学生活に対する総合的な満足度が、8年間で低下。

大学の理念やポリシーに対する学生の認知、理解をみると、「大学の理念・建学の精神」については約4割、「3つのポリシー」については約5～6割が「知らない」と回答しており、認知、理解が十分であるとはいえない状況だ。学生の大学に対する満足度をみると、8年前よりいずれの項目においても低下傾向にある。とくにこの4年間で「大学生活を総合的に判断して(とても+まあ満足している)」回答してもらった満足度が12.1ポイント低下している。

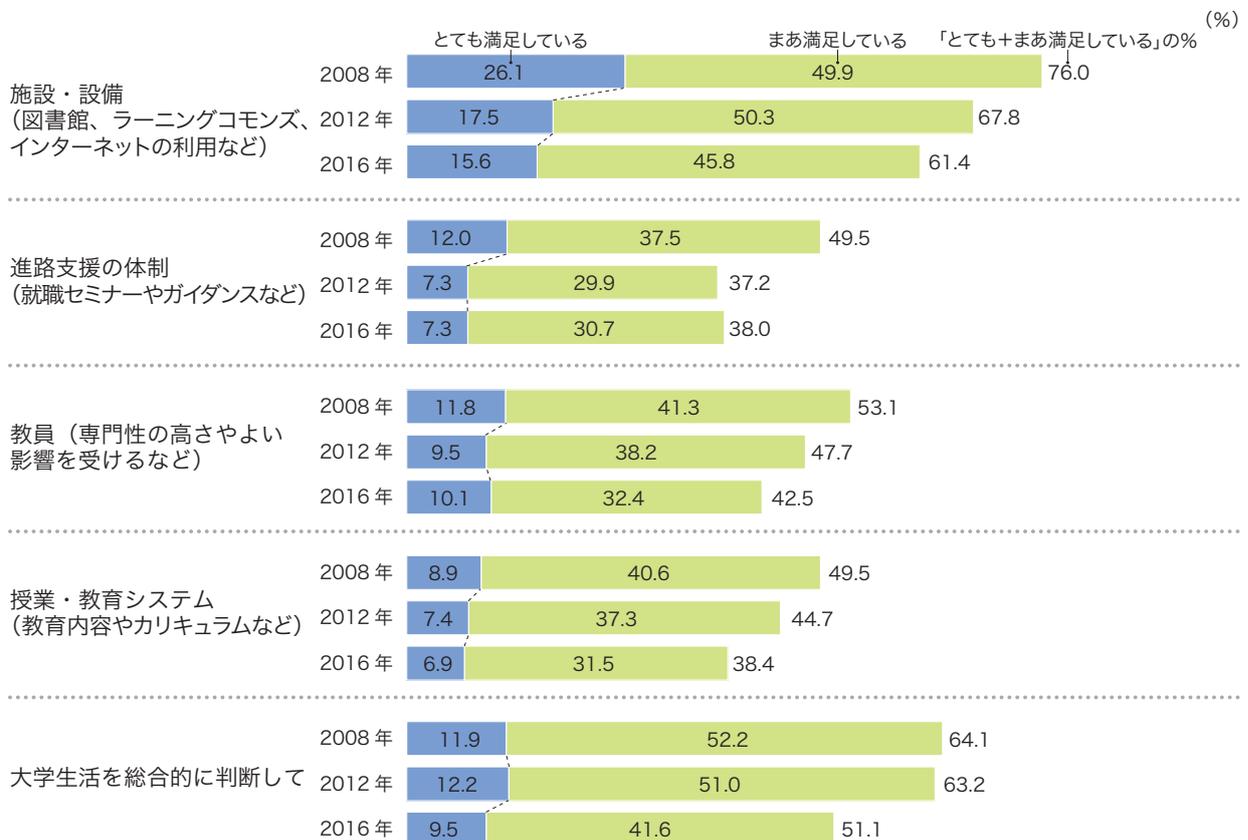
Q 現在通っている大学の理念についてどのくらい理解していますか。

図4-8 大学の精神、ポリシーの認知



Q 現在通っている大学について、どのくらい満足していますか。

図4-9 満足度



注) 全8項目のうち、他年度と比較可能な5項目を抜粋して表示。

4-4 学びの充実度・成長実感

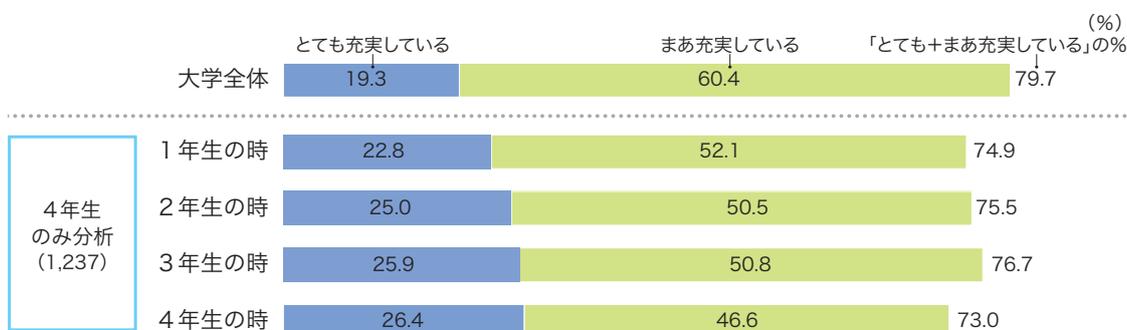
学びの充実度は学年で変わらないが、成長実感は学年が進むにつれ増加する。

4年生を対象に、各学年の学びの充実度をみると、「とても充実している」と回答する学生が学年が進むにつれ緩やかに増加するものの、「とても+まあ充実している」と回答する学生の割合は大きく変わらない。大学全体でみると約8割が充実していると回答している。次に、4年生を対象に、各学年の成長実感をみると、「とても+まあ実感する」との回答が、1年生では6割弱であるのに対し、学年とともに増加し4年生では約8割になる。学年が進むにつれ成長を実感する経験を積んでいる様子が見えてくる。

Q

大学の各学年における学びの充実度について、あてはまるものを1つお選びください。(2016年)

図4-10 学びの充実



Q

大学の各学年における成長実感について、あてはまるものを1つお選びください。(2016年)

図4-11 成長実感



4-5 困難への対処法

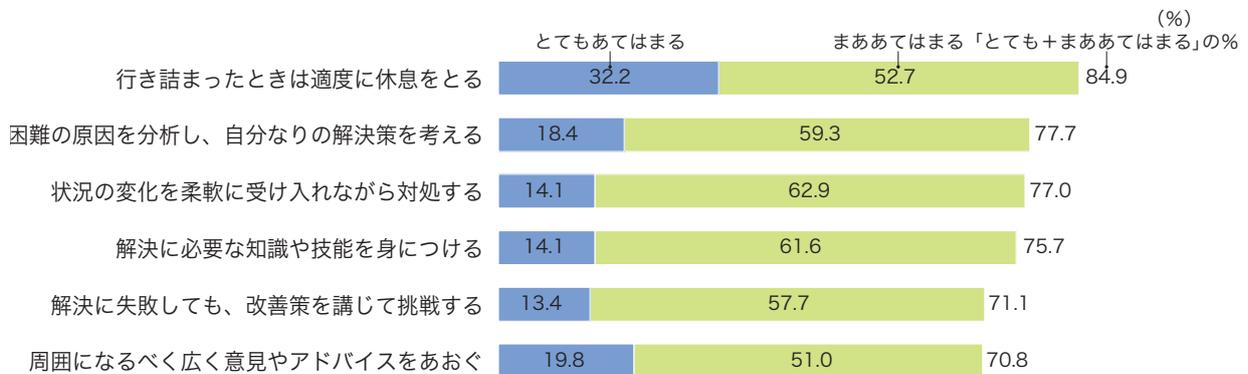
「行き詰まったときは適度に休息をとる」がもっとも多い。

困難への対処法では、「行き詰まったときは適度に休息をとる(とても+まああてはまる)」がもっとも多い。しかし、その他の解決策を示す項目(とても+まああてはまる)も約7~8割とあまり差がない結果となっている。解決策を講じながらも、適度な休息をとって行き詰まらないようバランスを取る姿がうかがえる。また、困ったことがあると「保護者が助けてくれる」か「自分で解決する」かをたずねた設問の回答(P.9 図2-7)別に困難への対処法をみた。いずれの項目にも差がなく、「保護者が助けてくれる」か「自分で解決する」かの考えの違いによって、困難への対処法は変わらないことがわかる。

Q

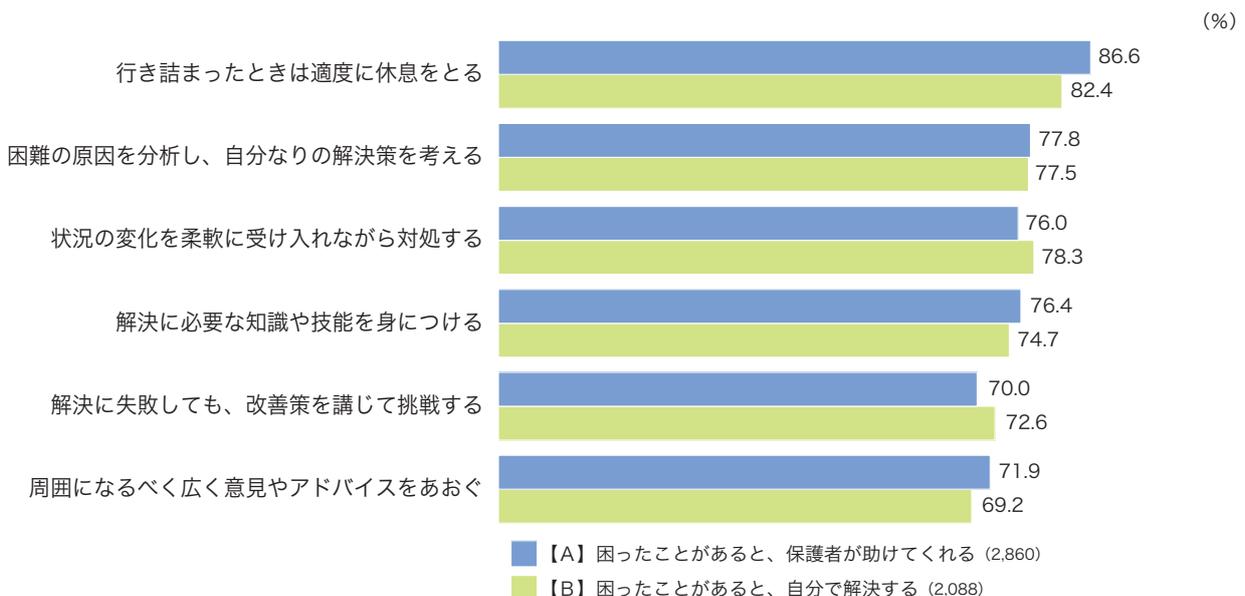
あなたは大学での学習や生活のなかで、困ったことに直面したとき、どのような行動をとっていますか。(2016年)

図4-12 困難への対処法



注)「とても+まああてはまる」の%。

図4-13 困難への対処法(保護者との関係別)



注1)「とても+まああてはまる」の%。

注2)「【A】困ったことがあると、保護者が助けてくれる」、「【B】困ったことがあると、自分で解決する」の2択に対し、「A」、「どちらかというとAに近い」と回答した群と、「B」、「どちらかというとBに近い」との回答した群にわけて集計した。

4-6 価値観

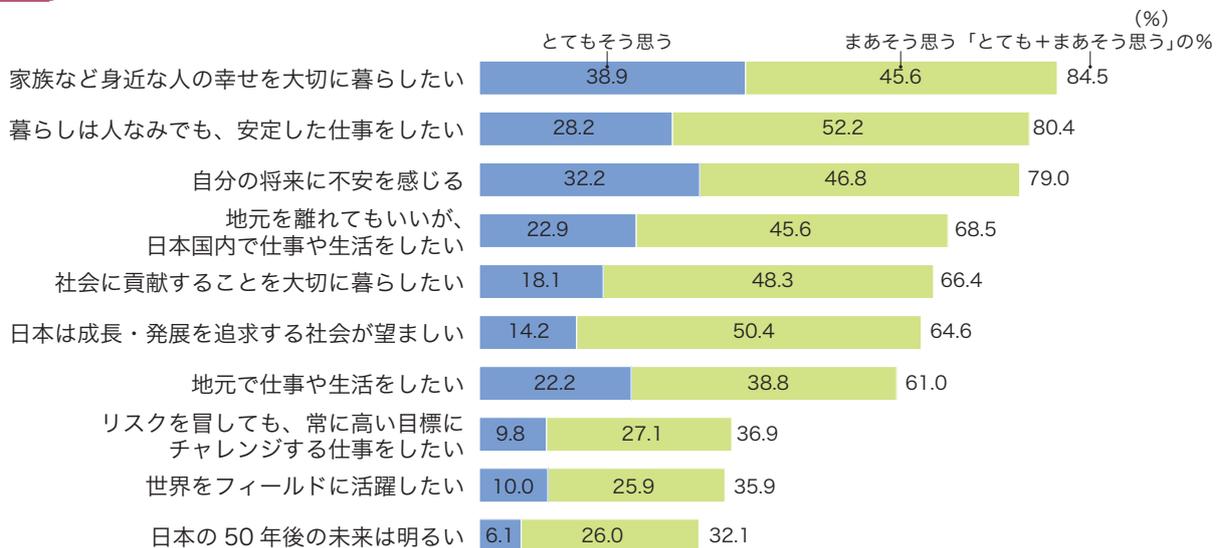
約8割が「自分の将来に不安を感じる」一方で、約7割が「過去と比較して現在は幸せ」と回答。

将来や就労に対する価値観をたずねた結果をみると、「家族など身近な人の幸せを大切に暮らしたい(とても+まあそう思う)」84.5%、「暮らしは人なみでも、安定した仕事をしたい(同)」80.4%で、身近で安定した幸せを求める回答が多い。また「自分の将来に不安を感じる(同)」79.0%と不安も大きい様子がわかる。幸福感をたずねた結果をみると、「ここ数年やってきたことを全体的に見て、幸せだ(同)」72.0%、「過去と比較して、現在の生活は幸せだ(同)」71.9%で、現状の生活に対しては幸福を感じている学生が多い。

Q

あなたは次のようなことについてどう思いますか。(2016年)

図4-14 社会・就労観

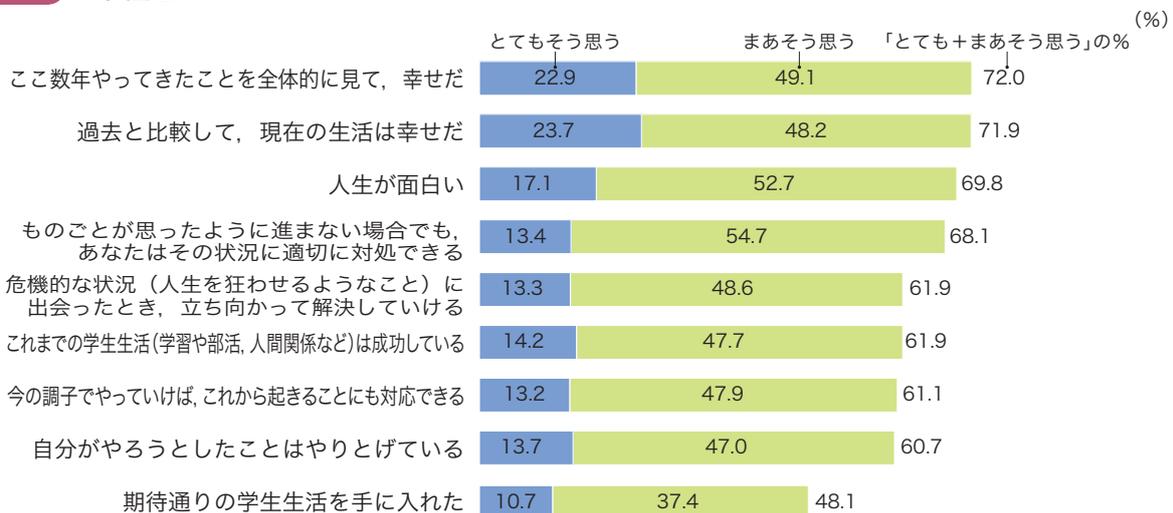


注)「とても+まあそう思う」の%。

Q

あなたは次のようなことについてどう思いますか。(2016年)

図4-15 幸福感



注)「とても+まあそう思う」の%。

4-7 投票行動

投票に行かなかった理由は、「住民票が居住地にないため」がもっとも多い。

これまでに投票に行った経験があるかどうかをたずねたところ、61.2%の学生が「ある(はい)」と回答した。「一人暮らし、寮」よりも「自宅」の学生のほうが、投票の経験が多いこともわかった。「ない(いいえ)」と回答した38.8%の学生に行かなかった理由をたずねたところ、「現在の居住地に住民票がなく、投票の場所が遠いため」が42.9%でもっとも多かった。

Q あなたは今までに、投票に行ったことがありますか。(2016年)

図4-16 投票経験の有無

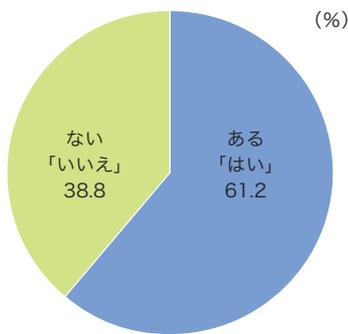
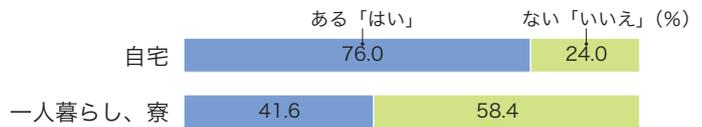


図4-17 投票経験の有無(住まい別)

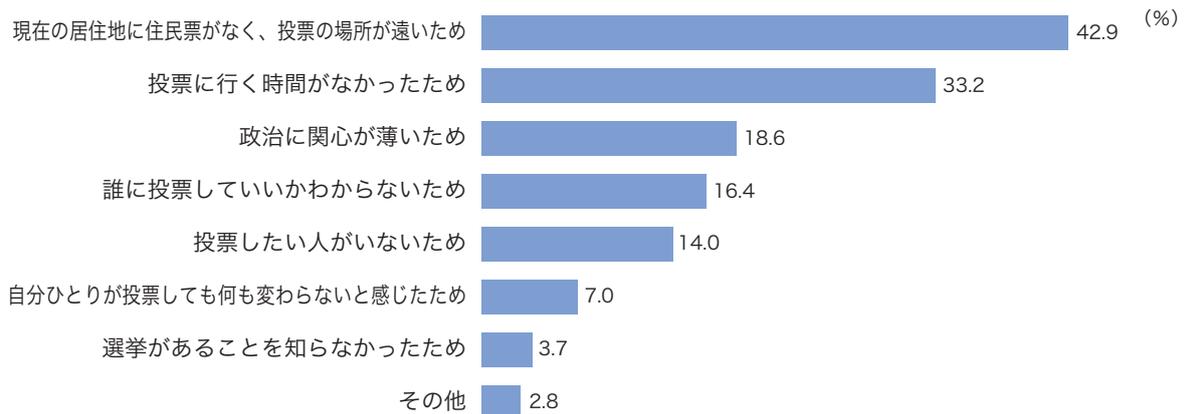


注1) 現在のお住まいをたずねる設問に、「自宅」と回答した者を「自宅」、「一人暮らし」、「大学の寮」、「大学以外の寮」と回答した者を「一人暮らし、寮」とする。「その他」と回答した者は、集計から除く。
注2) 自宅 n=2,792、一人暮らし、寮 n=2,061

「いいえ」と回答した人のみ回答

Q 投票に行かなかった理由について、あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答)

図4-18 投票に行かなかった理由



注) 「あなたは今までに、投票に行ったことがありますか」に、「いいえ」と回答した者が対象。n=1,919。

第3回 大学生の学習・生活実態調査

調査企画・分析メンバー

川嶋太津夫 (大阪大学 教授)
杉谷祐美子 (青山学院大学 教授)
山田 剛史 (京都大学 准教授)
谷田川ルミ (芝浦工業大学 准教授)
木村 治生 (ベネッセ教育総合研究所 副所長)
松本 留奈 (ベネッセ教育総合研究所 研究員)
佐藤 昭宏 (ベネッセ教育総合研究所 研究員)

※肩書き・所属は、刊行時点のものです。

ベネッセ教育総合研究所の WEB サイトのご案内

各種調査の結果も、こちらでご覧いただけます。

<http://berd.benesse.jp/>

こちらのサイトは **ベネッセ 研究** **検索** で検索できます。

「第3回大学生の学習・生活実態調査」速報版

発行 2017年6月27日
発行人 谷山和成
編集人 木村治生
発行所 (株)ベネッセホールディングス ベネッセ教育総合研究所
企画・制作 〒206-0033 東京都多摩市落合1-34
デザイン (株)ジー・アンド・ピー

©Benesse Educational Research and Development Institute
落丁本・乱丁本はお取り換えいたします。
無断転載を禁じます。